

## メキシコ

米村明夫

### はじめに

メキシコの教育システムは、基本的に日本と同様で、6歳で小学校に入学し、以後6年、中学3年、高校3年、大学4年が標準的である。初等前教育は、2年ないし3年である。義務教育は、小学校までであったが、1993年より中学校も義務化された。基礎教育とは、初等前教育から中学教育までを指す。

本稿は、「2000年評価」のメキシコのカントリーレポート（スペイン語A4判33ページ）の要旨である。レポートは、最初に完結に政策などについての概説がなされ、続いて18のEFA指標について、グラフが提示され、それに沿った記述がなされている。本稿ではグラフに数値が付してあった場合には、グラフを表に直して掲載する。また、「おわりに」において、筆者によるコメントを加える。

\*\*\* レポート要旨 \*\*\*

### 第1節 概説

ジョムティエン会議の目標を達成するためのメキシコにおける法的体制は、1992年の「基礎教育近代化のための国民的合意」、1993年の「憲法改正」「教育基本法」によっている。それらは、基礎教育と師範教育の連邦から州への分権化、様々な行動主体による参加の強化（「教育への社会参加国民審議会」の設立）、中学校教育の義務化、特殊教育の通常教育体制への統合、社会経済的に遅れている農村地域の教育機会を改善するための「補償プログラム」、教育における男女平等のための行動、通文化二言語（インターカルチュラル・バイリンガル）教育の促進、コミュニケーション・メディアに代表される技術発展の利用、「全国評価システム」による教育の質の評価体制の整備、教師の養成、研修、昇進の改善、等の

内容を持っている。

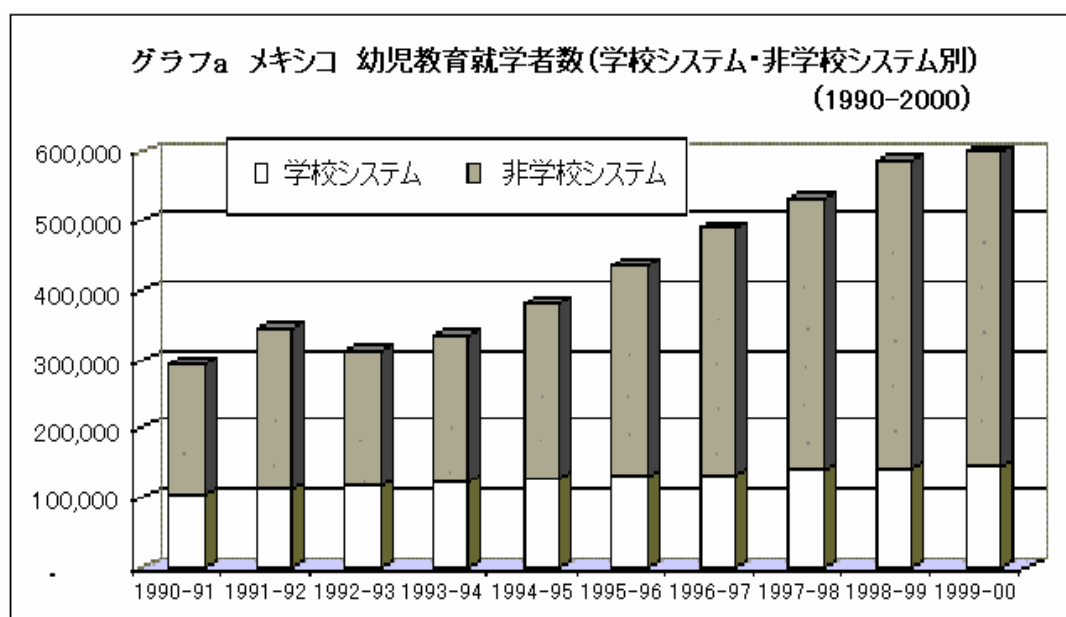
我々は、基礎教育の普遍化を、メキシコ人の主要な社会契約と考える。それによって、独立以来、自由と平等の原理によって社会を再建すると約束した国家が実際に可能となる。それは、たんに中級、上級専門職になるための準備段階なのではなく、よりよい社会を建設する可能性をもたらすものである。

## 第 2 節 18EFA 指標とその分析的記述

### < 1 . 初等前教育粗就学率 >

幼児（生後 45 日から 3 歳 11 ヶ月まで）は、「幼児教育」の対象となる。これは「基礎教育」の対象とならない。メキシコでは、学校システムによるもの〔幼児開発センター(Centros de Desarrollo Infantil)〕と非学校システムによるものがある。後者は、遠隔の貧困地域で、両親に教育的な働きかけることによって、彼らが子供の衛生、早期刺激、総合開発をできるようにし、伝統的な育児を豊かにするものである。親の子供への教育的な影響力を重視し、そこでは親への識字教育も行なわれ、家族、コミュニティの発展にも貢献している。グラフ a に見られるように、幼児教育は主に、学校システムによらないものの増加によって発展してきた（1990-2000 年度で学校システムに 10 万人、非学校システムに 50 万人程度、計 60 万人程度）。

「初等前教育」は、基礎教育の一部であり、3 歳から 5 歳の子供を対象にしている。国民にとっては義務ではない。一般に 3 学年あるが、前の学年を終えていなくとも、第 2 学年、あるいは第 3 学年に入ることができる。初等前教育を受けていなくとも小学校に入れる。しかし、国家にとっては、少なくとも 1 年の初等前教育を提供する義務がある。表 1 に、初等前教育粗就学率が示されている。また、表 1 a に見られるように、1990-91 年度では、5 歳児の 68.7%、1998-99 年度では、81.4%が就学していた。



(出所) Gráfica a. Evolución de la matrícula de educación inicial, según modalidad.

(原出所) Dirección General de Planeación, Programación y Presupuesto de la SEP.

表1 メキシコ 初等前教育 3,4,5 歳人口粗就学率 (1990-1998 )

(%)

|    | 1990-91 年度 | 1995-96 年度 | 1998-99 年度 |
|----|------------|------------|------------|
| 計  | 62.2       | 71.7       | 76.3       |
| 男子 | 61.5       | 71.1       | 75.7       |
| 女子 | 62.9       | 72.4       | 76.9       |

(出所) 1. Evolución de la tasa bruta de matrícula en programas de desarrollo de la primera infancia.

(原出所) Dirección General de Planeación, Programación y Presupuesto de la SEP. y Consejo Nacional de Población

表1a メキシコ 初等前教育 5 歳人口就学率 (1990-1998 )

(%)

|    | 1990-91 年度 | 1995-96 年度 | 1996-97 年度 | 1998-99 年度 |
|----|------------|------------|------------|------------|
| 計  | 68.7       | 79.2       | 79.6       | 81.4       |
| 男子 | -          | -          | 79.4       | 81.1       |
| 女子 | -          | -          | 79.9       | 81.7       |

(出所) 1a. Evolución de la tasa neta de matrícula en programas de desarrollo de la primera infancia.

(原出所) Dirección General de Planeación, Programación y Presupuesto de la SEP.

< 2 . 小学新入生中初等前教育経験者率 >

表 2 に見られるごとく、1990-91 年度の小学校 1 年生の 72.6%、1998-99 年度の 90.7%が初等前教育を受けていた。

表 2 メキシコ 小学新入 1 年生中の初等前教育経験者率 (1990-1998)

(%)

|    | 1990-91 年度 | 1995-96 年度 | 1996-97 年度 | 1998-99 年度 |
|----|------------|------------|------------|------------|
| 計  | 72.6       | 85.6       | 89.5       | 90.7       |
| 男子 | -          | -          | 89.1       | 90.3       |
| 女子 | -          | -          | 89.9       | 91.1       |

(出所) 2. Evolución del porcentaje de nuevos alumnos que ingresan en el primer grado de la enseñanza primaria total, a los que se ha depensado cualquier tipo de programa organizado de desarrollo de la primera infancia.

(原出所) Dirección General de Planeación, Programación y Presupuesto de la SEP.

< 3 . 小学校粗入学率 >

表 3 参照。小学校粗入学率が 100%を超えているのは、5 歳以下、7 歳以上の入学、留年があるからである。1998-99 年度の女子の数字が男子より高いが、一つには、親が男子に比べ女子の場合により多く 5 歳入学を行なった可能性がある。

表 3 メキシコ 小学校第 1 学年への粗入学率 (1990-1998)

(%)

|    | 1990-91 年度 | 1995-96 年度 | 1998-99 年度 |
|----|------------|------------|------------|
| 計  | 115.8      | 112.7      | 114.0      |
| 男子 | 116.9      | 113.4      | 110.3      |
| 女子 | 114.7      | 111.9      | 117.9      |

(出所) 3. Tasa bruta de ingreso a primer grado de primaria.

(原出所) Dirección General de Planeación, Programación y Presupuesto de la SEP. y Consejo Nacional de Población.

#### < 4 . 小学校純入学率 >

表4に見られるように、現在、93%の6歳児童が小学校第1学年にいる。男女ほぼ等しいことに注目すべきである。また、6歳児のある部分は第2学年にいることを考慮すべである。9歳児の就学率が一番高く、1997年には97.6%が就学していた。

表4 メキシコ 小学校第1学年への純入学率 (1990-1998)

(%)

|    | 1990-91 年度 | 1995-96 年度 | 1998-99 年度 |
|----|------------|------------|------------|
| 計  | 91.40      | 90.67      | 92.94      |
| 男子 |            | 90.81      | 92.96      |
| 女子 |            | 90.53      | 92.91      |

(出所) 4. Evolución de la tasa enta de ingreso al año de primaria.

(原出所) Dirección General de Planeación, Programación y

Presupuesto de la SEP. y Consejo Nacional de Población.

#### < 5 . 小学校粗就学率 >

表5参照。小学校粗就学率が100%を超えているのは、5歳以下あるいは12歳以上のものがあるためである。主に、試験落第の結果の留年が原因である。

女子より男子の落第が多いので、1990-91年度、1995-96年度の粗就学率は男子の方が高かった。しかし、1998-99年度は、逆である。先に述べたように女子を6歳より前に就学させるためであろう。

表5 メキシコ 小学校粗就学率 (1990-1998)

(%)

|    | 1990-91 年度 | 1995-96 年度 | 1998-99 年度 |
|----|------------|------------|------------|
| 計  | 111.4      | 111.9      | 112.0      |
| 男子 | 113.2      | 113.8      | 107.3      |
| 女子 | 109.6      | 110.0      | 116.9      |

(出所) 5. Tasa bruta de matrícula en la educación primaria.

(原出所) Dirección General de Planeación, Programación y

Presupuesto de la SEP. y Consejo Nacional de Población.

## < 6 . 小学校純就学率 >

表6に示されるように、6歳から11歳児童の就学率のレベルは、メキシコが小学校普及に関して「普遍化」の状況にたいへん近いことを示している。メキシコ政府は、公正、質、適切性の原理に基づき、初等教育を始めとする基礎教育の質を高めることに関心をもった。この結果が、先の粗就学率、この純就学率の結果に現れている。

表6 メキシコ 小学校純就学率 (1990-1997)

(%)

|    | 1990  | 1996 | 1997  |
|----|-------|------|-------|
| 計  | 90.4  | 96   | 96.63 |
| 男子 | 90.4  | -    | -     |
| 女子 | 90.41 | -    | -     |

(出所) 6. Tasa neta de escolarización de la población  
6-11 años de edad.

(原出所) XI Censo general de población y vivienda 1990.  
Censo de población y vivienda 1996.

この前進は、基本的に、「補償プログラム」のおかげである。このプログラムは、より周辺化された状態にあるコミュニティの生徒や教師の不利な条件を減少してきた。また、この前進は、中途退学減少、先住民児童のさらなる就学のための努力などにもよっている。

初等、中等教育のプラン、プログラム、内容は全面的に改革され、基本的な価値観、知識の形成が目指され、スペイン語、数学、その他の科目の機能的な操作に重点が置かれた。

また、先住民の教育、小さい遠隔地での教育（コミュニティ教育）が重視された。奨学金も栄養・衛生の戦略（PROGRESA）とともに実施された。PROGRESA は、女子への教育援助を保証しようとしている。

質に関しては、教師に対して、研修、給料の改善等、教職を全うするための援助、インセンティブを与えてきた。

また、概説で述べた「全国教育評価システム」も作られつつある。

こうした努力の結果、途中退学率、進級試験不合格率、修了効率（卒業生数 / 6 年前進入 1 年生数 × 100%）は表 6 a のように改善してきた。

表 6 a メキシコ 小学校途中退学率、進級試験不合格率、修了効率

(%)

|         | 途中退学率 | 進級試験不合格率 | 修了効率  |
|---------|-------|----------|-------|
| 1990-91 | 5.3   | 10.1     | 70.1  |
| 1991-92 | 4.6   | 9.8      | 71.6  |
| 1992-93 | 4.1   | 8.3      | 72.9  |
| 1993-94 | 3.6   | 8.3      | 74.2  |
| 1994-95 | 3.4   | 8.1      | 77.7  |
| 1995-96 | 3.0   | 7.8      | 80.0  |
| 1996-97 | 3.1   | 7.6      | 82.8  |
| 1997-98 | 2.9   | 7.3*     | 84.9* |
| 1998-99 | 2.4   | 7.1*     | 85.6* |

\* 推計値

（出所）レポートテキスト中より。

（原出所）不明。

< 7 . a . 「初等教育への経常公的支出」対「GDP」比、

b . 「生徒一人当たり初等教育への経常公的支出」対「一人当たり GDP 比」

(注 1) >

1998 年の教育全体への公的支出は、国内総生産の 5.1%、家計支出加えると 6.1% にのぼった。1994 年の OECD メンバーの半分の国が 5-6%を支出していた。

表 7 に示されるように、初等教育への支出は、投資支出を除くと、1990 年には国内総生産の 0.8%、1998 年には 1.7%であった。

こうした増加は、「一人当たり国内総生産」に対する「小學校生徒一人当たり支出」で見るとよりはっきりし、この期間に 3 倍となっている。

表7 メキシコ 「初等教育公的経常支出」対「国内総生産」および

「生徒一人当たり初等教育公的経常支出」対「一人当たり国内総生産」

(%)

|                                      | 1990 | 1996 | 1998 |
|--------------------------------------|------|------|------|
| 「初等教育公的経常支出」<br>対「国内総生産」             | 0.8  | 1.5  | 1.7  |
| 「生徒一人当たり初等教育公的経常支出」<br>対「一人当たり国内総生産」 | 4.6  | 10.2 | 12.1 |

(出所) 7. Gasto público ordinario en la enseñanza primaria: a) en porcentaje del PIB  
b) por alumno, en porcentaje del PIB por habitante.

(原出所) Dirección General de Planeación, Programación y Presupuesto de la SEP.

#### < 8 . 教育への公的支出全体における初等教育への公的支出の割合 >

初等教育の生徒数はほとんど変わらなかったが、表8に見られるように、初等教育への支出の割合は増加した。

新しい教育への投資は、教育の質を高めることを優先にし、それによってアクセスのなかったグループへ教育がより適切に届くようにした。

表8 メキシコ 「初等教育公的支出」対「全教育公的支出」

( 1990-1998 )

(%)

| 1990 | 1996 | 1998 |
|------|------|------|
| 24.4 | 34.9 | 36.4 |

(出所) 8. Gasto público en la enseñanza primaria en porcentaje del gasto público en educación.

(原出所) Dirección General de Planeación, Programación y Presupuesto de la SEP.

#### < 9 . 小学校教師必要学歴習得者率 >

表9に示されるように、通常小学校、通文化二言語小学校の教師は全員教員養成課程をきちんと終えているが、その 15.6%は教職学位を欠いており、その取得手続きが必要である。

人口 99 人以下の遠隔地向けのコミュニティ小学校では、後期中等教育を終えた青年が 2 年間コミュニティで生活する。彼らは、生活のための奨学金と定期的な研修を受ける。コミュニティ学校は、27 年間、質の高い教育を供給する一つの選択肢として機能してきた。それは、この青年教師達の持つ、教職を通じて一般に困難な環境でコミュニティとともに発展しようとする熱意、使命感のおかげである。これらの青年教師と普通の教師の比較からは、前者のほうが学習によりよい成績をもたらすことが示されている。ここから、質と適切性を高めるためのさまざまな戦略を評価するための参考となる点が得られる。

表 9 メキシコ 小学校教員中必要学歴を有する者

(%)

| 1996-97 | 1997-98 |
|---------|---------|
| 84.3    | 84.4    |

(出所) 9. Plazas docentes de educación primaria, en carrera magisterial.

(原出所) Coordinación Nacional de la Carrera Magisterial, Secretaría de Educación Pública.

#### < 10 . 小学校教師資格取得者率(注 2) >

小学校教師は、すべて教師としての教育（通常の師範教育あるいは、コミュニティ指導員、二重言語教師養成教育）と認定を受けている。

教師の絶えざる発展のために、教員組合とともに、1992 年より「教員職歴」プログラムを発展させてきた。これは評価と昇進のシステムであり、普通のクラスでの教員から管理職や教育専門職への昇進や収入の増加がある。このプログラムには 65 万人が加入しており、10 万 9,135 の昇進があった。

1995 年から、基礎教育現職教員恒常的研修プログラムの一つとして、研修全国コースが行われ、約 100 万人の教師のうち、半分が参加した。もう一つは、現在 450 箇所、2000 年には 500 箇所を予定している教員研修センターがある。これらのセンターは、衛星による遠隔通信システムにつながっている。

< 1 1 . 小学校教員一人あたりの生徒数 >

教師数の増加と人口政策の結果、表 1 1 に示されるように、小学校教員一人あたりの生徒数は減少してきた。1990-91 年度にはそれは、30.5 人であったが、1998-99 年度には 27 人になった。都市、混血地域では、出生率の低下が小学校の生徒数の減少を引き起こしてきた。例えば、混血地域といえるドゥランゴ州では、23.7 人である。あるいは、連邦地区では、教室が余っており、初等前教育に利用されている。

表 11 メキシコ 小学校教師一人当たり生徒数

(人)

|    | 1990-91 年度 | 1996-97 年度 | 1998-99 年度 |
|----|------------|------------|------------|
| 計  | 30.5       | 28.3       | 27.2       |
| 男子 | 30.2       | 28.4       | 27.2       |
| 女子 | 32.0       | 26.8       | 26.8       |

(出所) 11. Evolución del número de alumnos por docente en la educación primaria.

(原出所) Dirección General de Planeación, Programación y Presupuesto de la SEP.

もともとの数字が低いコミュニティ小学校でも、表 1 1 d に示されるように、この期間に 12.1 人から 8.7 人に減少している。この場合、出生率の減少がその原因ではなく、コミュニティの人口過疎化のためである。

表 11d メキシコ コミュニティ小学校教師一人当たり生徒数

(人)

| 1990-91 年度 | 1995-96 年度 | 1998 - 99 年度 |
|------------|------------|--------------|
| 12.15      | 10.86      | 8.76         |

(出所) 11d. Evolución del número de alumnos por docente en la educación primaria.

(原出所) Dirección General de Planeación, Programación y Presupuesto de la SEP.

< 12 . 小学校第1学年 - 第5学年までの進級試験不合格率（注3） >

この指標に関しては、これまですべての州で改善があったが、農村地域が支配的な南の諸州での大きな改善が依然として課題である。

表12に見られるように、女子より男子のほうが不合格率が高い。これは、男子を家族の生存のために家族の労働に参加させるためである。この結果、小学校第6学年修了効率（卒業生数 / 6年前進入1年生数 × 100%）は、女子のほうが高い。

表12 メキシコ 小学校1-5年生進級試験不合格率

(1990-1998)

(%)

|    | 1990-91 年度 | 1996-97 年度 | 1997-98 年度 |
|----|------------|------------|------------|
| 計  | 11.5       | 8.6        | 8.3        |
| 男子 |            | 9.9        | 9.6        |
| 女子 |            | 7.2        | 6.9        |

(出所) 12. Tasa de reprobación de 1° a 5° grado de educación primaria.

(原出所) Dirección General de Planeación, Programación y Presupuesto de la SEP.

また、表12aを見ると、私立小学校のほうが低い進級試験不合格率であることが目立つ。ただし、私立は小学校登録者の5%を占めるにすぎない。

補償プログラムによって、全国のすべての農村地域、先住民地域で、子供への文房具、教材の配布、学校設備の改善、教員が地域に根付き熱心に仕事するようにするためのインセンティブ、教員、視学官、校長などさまざまな教育関係者の研修、学校の建設、修繕を行ってきた。初等教育生徒の10人中3人がこのプログラムによる便益を享受している。親が教師達の進歩を評価し、相応のインセンティブを与える任を負っている。1999年には、最遠隔、最貧地域の学校の31,000人の教師がインセンティブを受け取る予定である。

表 12a メキシコ 公立・私立別小学校 1-5 年生進級試験不合格率  
( 1990-1998 ) (%)

|    | 1990-91 年度 | 1996-97 年度 | 1997-98 年度 |
|----|------------|------------|------------|
| 公立 | 12         | 9.1        | 8.8        |
| 私立 | 2.8        | 1.3        | 1.3        |

(出所) 12a. Tasa de reprobación de 1° a 5° grado de educación primaria según tipo de sostenimiento.

(原出所) Dirección General de Planeación, Programación y Presupuesto de la SEP.

### < 1 3 . 小学校 5 年生までの残存率 >

補償プログラム、二重言語通文化小学校、コミュニティ小学校、基礎教育の質の向上を目指して実行された改革のおかげで、小学校 5 年生までの残存率は、表 1 3 のごとく改善してきた。1990-91 年度には入学者の 80%が、1995-96 年度には 86%が第 5 学年に到達するであろうと推計されている。

さらに、初等教育の途中退学者の多くが、成人基礎教育を受けていることを考慮する必要がある。したがって、1997 年には、15 歳人口の 90%が小学校第 5 学年に達していた。

表 13 メキシコ 小学校 5 年生までの残存率 ( 1990-1999 )

(%)

| コホートの年度 | 1987-88 年度 | 1990-91 年度 | 1995-96 年度 | 1998-99 年度 | 1999-2000 年度 |
|---------|------------|------------|------------|------------|--------------|
|         | 76         | 80         | 86         | 85         | 85           |

(出所) 13. Tasa de superviviencia en el 5° grado de primaria.

(原出所) Dirección General de Planeación, Programación y Presupuesto de la SEP.

### < 1 4 . 小学校の効率係数 ( 卒業に必要な平均年数 ÷ 6 年 × 100% ) >

効率係数は、まったく留年、中途退学かなかったとしたときの必要な資源量と実際に使われた資源量の比をあらわす。

例えば、表 1 4 において、1998-99 年度の効率係数は 93.8%であり、この時仮に

まったく留年、中途退学かなかったとすれば、必要な資源は実際の 93.8% でしょうということを意味している。あるいは、理想的には 6 年で修了する課程を実際には、平均 6.4 年(=6 年 ÷ 0.938)かかっているということを意味している(注 4)。

表 14 メキシコ 小学校「効率係数」\* (1990-1999)

(%)

| 1990-91 年度 | 1995-96 年度 | 1997-98 年度 | 1998-99 年度 | 1999-2000 年度 |
|------------|------------|------------|------------|--------------|
| 92.3       | 92.3       | 93.8       | 93.8       | 93.8         |

\*効率係数 = 卒業に必要な平均年数 ÷ 6 年 × 100%

(出所) 14. Coeficiente de eficacia.

(原出所) Dirección General de Planeación, Programación y Presupuesto de la SEP.

1990-91 年度は平均 6.45 年、1992-93 年度は平均 6.41 年になっている。ここでの前進は、正規年齢以外の生徒の減少、進級試験不合格、途中退学の防止努力によって説明される。1990 年代末には進級試験不合格、留年の減少によって、初等教育登録者数がかなり減ると予測されている。

#### < 15 . 小学校 4 年生全国標準基礎学力到達者率 >

1998 年に、初めて全国規模のスペイン語と数学の標準学力評価試験が行われた。その結果は、表 15 に都市農村別に示してある。都市においては、数学では 74.3%、スペイン語の読解力では、82.8%が十分に、あるいはある程度基礎的な能力に達していた。農村では、これらより低い。また、都市、農村ともに数学のほうがスペイン語より高い数字であることは注目される。

将来行われる試験の結果と比較することによって、カリキュラム改革の効果、補償プログラムの効果を知ることができよう。

表 15 メキシコ 小学校 4 年生でそのあるべき標準基礎学力に

十分達した者およびある程度達した者 (1998)

(%)

|    | スペイン語 | 数学   |
|----|-------|------|
| 都市 | 74.3  | 82.8 |
| 農村 | 61.9  | 76.2 |

(出所) 15. Porcentaje de alumnos que han cumplido el cuarto grado de primaria, que dominan total o parcialmente las competencias básicas de comprensión lectora, cálculo básico definidas a escala nacional para dicho grado.

(原出所) Secretaría de Educación Pública.

#### < 16 . 15-24 歳人口識字率 (注 5) >

この十年間、子供達に基礎教育を与えるために大きな努力をしてきた。それは、表 16 に見られる。

表 16 メキシコ 16 - 24 歳識字率

(%)

|    | 1990 | 1996 | 1997 |
|----|------|------|------|
| 計  | 96.3 | 96.8 | 96.7 |
| 男子 | 96.8 | 96.0 | 96.9 |
| 女子 | 94.7 | 95.6 | 96.5 |

(出所) 16. Evolución de la tasa de alfabetismo de adultos (16-24 años).

(原出所) Censo general de población y vivienda 1990, Conteo de población y Encuesta nacional de la dinámica demográfica.

#### < 17 . 15 歳以上人口識字率 (注 6) >

しかし、表 17 からわかるように、16 歳以上の女性の 13%が読み書きができない。こうした人々は、より失業、病気、搾取、極貧に見舞われやすい。

グラフ 17a から、チアパス、オアハカ、ゲレロ、イダルゴ、プエブラ、ベラクルスの各州が 90 年代を通じて識字率が最も低かったことがわかる。これらの州は、先住民の多く住む領域である。

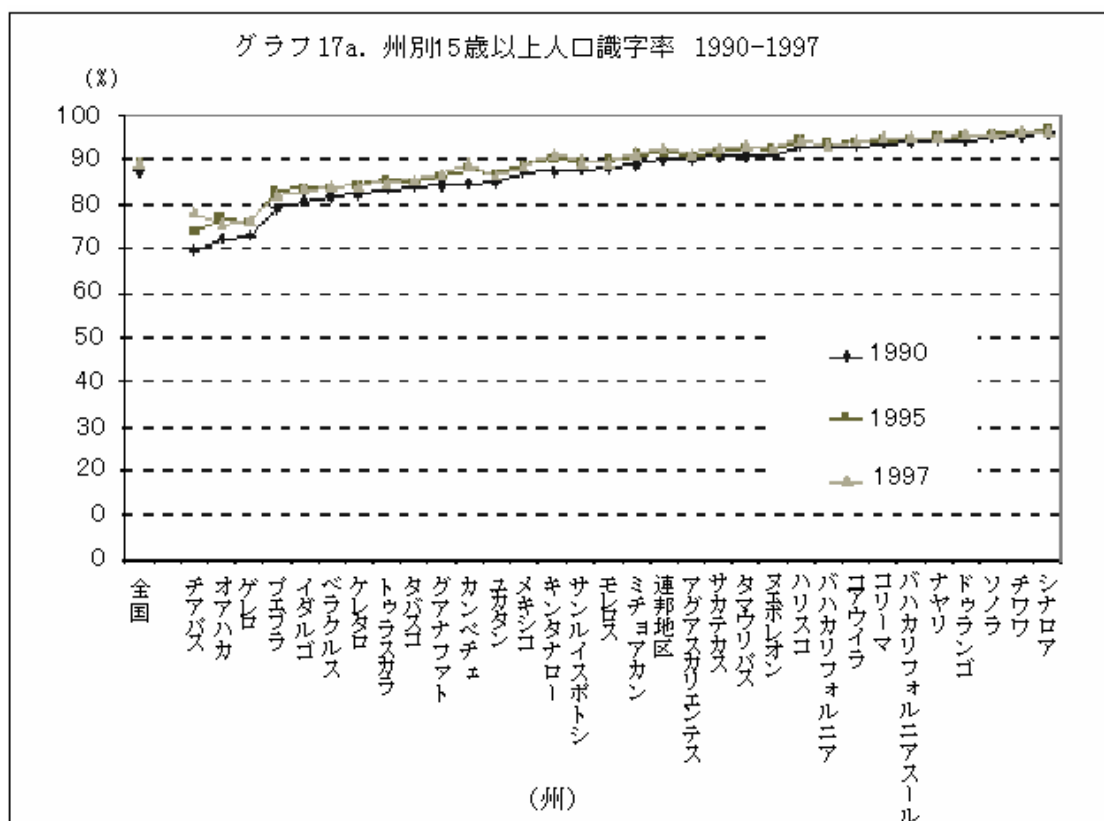
表 17 メキシコ 16 歳以上人口識字率 (1990-1997)

(%)

|    | 1990 | 1996 | 1997 |
|----|------|------|------|
| 計  | 87.4 | 89.3 | 89.4 |
| 男子 | 90.2 | 91.4 | 92.0 |
| 女子 | 84.8 | 87.2 | 87.1 |

(出所) 16. Evolución de la tasa de alfabetismo de adultos  
(16 años y más).

(原出所) Encuesta nacional de la dinámica demográfica.



(出所) 17a. Evolución de la tasa de alfabetismo en la población adulta 15 años y más por entidad federativa.

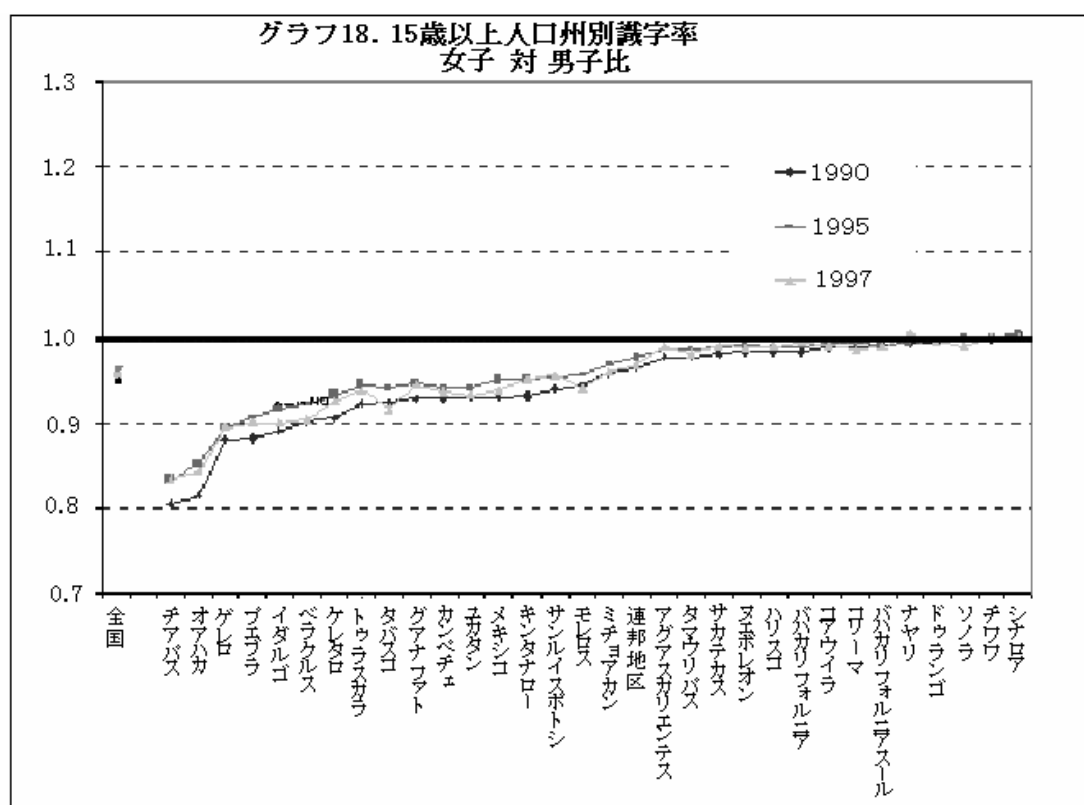
(原出所) Encuesta nacional de la dinámica demográfica, 1997.

# < 18 . 識字率女子対男子比 >

グラフ18からわかるように、そこはまた、男女間の格差がより多くある地域でもある。

メキシコの非識字の問題は、現在成人で遠隔の小人口集落（ロカリティ）に住んでいる人々が、子供の時に基礎教育を与えられなかったことによる。グラフ17bによると、非識字率は、45歳以上の99人以下の集落の女性に最も高い。

他方、大きな都市に住む若者の間では、非識字はほとんど根絶された。15-24歳人口では、4.2%で、男女差もない。こうした進歩は、初等前、初等教育の質の高さ、適切さを物語っている。

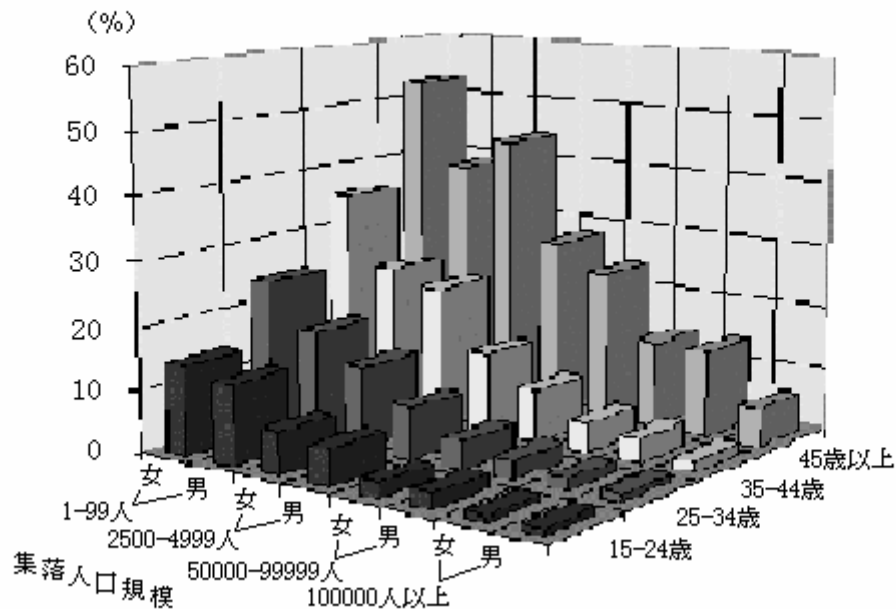


(出所) 18. Evolución de la paridad fem/masc de la tasa de alfabetismo en la población adulta (15 años y más) por entidad federativa.

(原出所) XI Censo general de población y vivienda, 1990 y Censo de población y vivienda, 1995 y Encuesta nacional de la dinámica demográfica.

グラフ17b 集落(ロカリティ)人口規模、年齢グループ、男女別非識字率

1995年



(出所) 17b. Analfabetismo según tamaño de localidad, grupo etareo y sexo.

(原出所) Censo de población y vivienda, 1995.

国立成人教育庁(Instituto Nacional de Educacion para Adultos)が、識字教育と成人のための基礎教育を関連づけて組織、調整する任を負っている。

1997 年以来、憲法の義務規定を果たすために、成人放送中学校プログラムが実施されている。これに、企業、その他の社会グループが場所や時間をさいて協力してくれることが期待されている。

成人教育は、連邦が指揮するが、州毎の特徴に合わせて、様々な活動が組み込まれる。そうして、州レベル、地域レベルの社会グループの参加も促進されるようにしている。1998 年には、識字、基礎教育、職業教育のプログラムに、260 万人の成人が参加した。

1990 年代は、先住民の識字への努力が重要であった。1997-98 年に、99,800 人の先住民対象にしたプログラムで、10 人中 4 人が識字に至った。

\*\*\*以上要旨\*\*\*

おわりに

メキシコの初等教育の普及は、特に 1970 年代以降急速に進められた。そして、本レポートでも述べられているように、1990 年代も前進が続いており、「普遍化 = 完全普及」に近づきつつあるように見える。

メキシコ政府は、人口規模の小さい集落向けのコミュニティ小学校、先住民のための通文化二言語学校を含めた学校システムを通じた、子供達を対象にした教育に力を入れている。このレポートでは、子供達の小学校修了を成功に導くために、これらの特別な学校の積極的な設置の他、非学校システムによる幼児教育の普及、初等前教育の普及、教員の研修などを通じた教育の質の改善、などのプログラムを実施してきたこと、その成果が数字に表れている、としている(表 6a)。

初等教育普及の問題は、教育供給の側からいえば、学校のないところに学校を設置するという問題と、教育の質(魅力)を高めることによって子供が入学し、卒業に至るようにするという問題がある。メキシコの場合、前者は極端に人口規模の小さい集落(それはしばしば先住民集落でもある)の問題であり、後者は進級試験落第の問題、教育を供給する側についていえば先生の質を含めた学校の教育環境の問題といえる。この意味で、政府の諸政策は当を得たものであったといえることができる。

しかし、その経済水準に比して、メキシコの初等教育普及は遅れをとり続けた。1990 年代の進歩はこのレポートが全体として与える明るい印象ほどのものではなく、「初等教育の完全普及」という目的達成については、現在なお楽観視すべき状況にはないことを確認しておく必要がある。

第 1 に、その量的側面をみよう。レポートは、成人教育も含めて考えれば、「1997 年には、15 歳人口の 90%が小学校第 5 学年に達していた」と述べていた。ここで、「第 5 学年に達する」あるいは「5 年生まで残存」という時、それは、「第 4 学年までの課程を修了し、第 5 学年に達した」ということを意味しており、「初等学校修了」であるためには、さらに第 5 学年、第 6 学年の修了をまっ必要があることに注意すべきである。したがって、「初等学校修了」率は、90%より数%は低いと考えなければならない。それは、「初等教育の普遍化に近い」というにはまだ不十分なレベルであろう。

他方、1990 年のセンサスでは、15-19 歳人口の 83%が小学校レベルを修了していた(この数字は成人教育によるものも含まれていると考えられる)。これらの数値から、1990 年代に若干の前進があったことは確かであろう。しかし、その前進は 1990 年代の半ばで足踏みしている可能性が高い。成人教育を除いた場合についてであるが、表 13 を見ると、1990-91 年度に 80%であった「5 年生まで残存率」が 1995-96 年度で 86%となり、以降だいたいその水準(85%)で止まっているのである。

第 2 に、質的な側面をみよう。表 6 で見たように、最近では純就学率が 97%までにいたっており、学校へのアクセスは「普遍化」に近づいているといえる。しかし、学校の質、魅力は学校に来た子供達を全員、進級試験に合格させ、卒業させるまでには至っていないのである。

全般的にメキシコの公立小学校の教育の質は良いものではない(注 7)が、特に問題なのは、量的側面で問題を抱えているような遠隔、貧困の地域、学校ほど、教育条件、教員の質などでも問題を抱えていることが多い、ということである。先に言及した 90 年代半ば以降の「5 年生までの残留率」の停滞は、そうした問題を反映していると考えられる。政府は、教員の質を上げることを重点に、「研修」「昇進」「インセンティブ(主に金銭)」等の施策を行っているが、遠隔、貧困の地域、学校でそれらが実際にどのように機能しているかは、明らかではなく、より慎重に確かめて見る必要がある。

また、初等教育修了に関して 90 年代に統計上の改善が見られた部分についても、質的な観点からは注意が必要である。すなわち、教育普及が困難な地域、人々を対象とする程度が高まるにつれ、その教育方法は通常のものとは異なるタイプ、すなわち、コミュニティ小学校、通文化二言語小学校、成人教育などを通じた教育普及となっている。この時、最終的には子供の受けた教育の質という点で、同じ初等教育レベル修了でも、すべてを同質とみなせるか、という問題がある(注 8)。この問題に対する答え次第ともいえるが、政策的に、例えば、先の数字から推察される、成人教育が若年層の初等教育の 5%前後を引き受けている、というような状態を続けることが好ましいかどうか、といった問題が提起されよう。

ジョムティエンの世界教育会議に発する EFA の理念、戦略からは、こうした多様な方法での教育機会の提供が推奨されていたことは確かである。しかし、そこ

では同時に、多様な方法が、同一の学力レベルをもたらすものでなければならぬことが強調されていたが、メキシコの現実の中で、そうした条件が満たされたかどうかは、検証が必要であろう。この問題は、メキシコのように中学の義務化によって、小学校卒業生の全員が中学校に行くことを想定した場合、中学教育が順調に進められるための実際的な条件となってくるのである。

メキシコは、初等教育の完全普及を核とする EFA の世界的な運動において、優等生のように見える。というより、途上国の中で人口規模、経済水準、規模において重要な位置を占めているメキシコは、先進国を含めた国際的合意の正当性、その順調な進展を体現するものとして、優等生であることが求められているのである。このことが、第 1 章でも触れられているような、世銀や米州銀行からの多額のクレジットの供与にも表れていよう。それは、メキシコのこれまでおよび今後の成果が、EFA の運動全体の成否、評価に関わるものとなってくることをも意味しているのである。

## 注

(注 1) EFA 指標としては、GDP でなく、GNP に関するものが求められている。

(注 2) メキシコについては、表、グラフの掲載はない。

(注 3) EFA 指標としては、「学年別留年率」が求められており、これとは異なる。

(注 4) 厳密に言えば、「途中退学者にかけた費用も含めたうえで、卒業生一人あたりの費

用が平均 6.4 年分の資源」とする必要がある。

(注 5) グラフでは、16-24 歳となっており、本文中では 15-24 歳として説明がある。本

文が正しいと思われる。

(注 6) グラフ、本文ともに 16 歳以上となっている。15 歳が正しい可能性がある。

(注 7) 例えば、レポートでは、84.4%が教職の学位を持っており、全員が教職の資格を持っているとしているが、教員の学歴水準の実態はかなり低いと考えられ

る。ここでの数字には、通常の師範教育や、高等教育を経た者以外に、教職に就いた後、様々なタイプの教育、研修によって得た学歴、資格を得た者が極めて多く含まれていると思われるのである。さらに、コミュニティ小学校については、後期中等教育修了で教員資格を持つとしているが、実際にはこれを満たしていない場合もある。

（注８）筆者の観察では、通文化二言語小学校の教育環境は、様々な点で農村の通常の小学校と同レベルと見て良いと思われる。

#### 参考文献

Secretaría de Educación Pública, Dirección General de Relaciones Internacionales, (2000), *México “Evaluación de Educación para Todos 2000 ”* (UNESCO のウェブサイトの World Education Forum に関する項目中の Assessment 2000 のカントリーレポート)。